

岡山県+SAFE 協議会（介護施設）を開催しました

令和4年10月21日（金）に「岡山労働基準監督署3階会議室」において開催
○岡山県+SAFE 協議会（介護施設）の設置・活動について

岡山労働局では、増加する介護施設の労働災害防止への取組みとして令和4年度から岡山県+SAFE 協議会（介護施設）（協議会と言う）を設置して、県内リーディングカンパニー、岡山県所管部署、業界関係者^()の協力のもと好事例の発信、労働災害防止の啓発資料作成方針などを協議しています。

社会福祉法人天神会、社会福祉法人敬友会、岡山県保健福祉部監査指導課、岡山県社会福祉法人経営者協議会、公益財団法人介護労働安定センター、一般社団法人岡山県労働基準協会



○議事、好事例発表、意見交換

(1)(福)天神会好事例：腰痛ゼロへの挑戦

(2)(福)敬友会：持ち上げない介護

(3)介護施設における労働災害防止啓発資料作成方針について

(4)今後の協議会として取組む活動内容について

○労働災害の現状（コロナ除く）

令和3年の県内労働災害で社会福祉施設（介護施設含む）は10%を占めている。介護施設の労働災害で多いのは「転倒」や腰痛等「動作の反動、無理な動作」で併せて64%を占めている。

○労働災害防止の取り組みと問題点

好事例をいただいた2社のようにノーリフト運動を推進できる事業者ばかりではないため、それが困難な事業者向けに国や地方自治体の助成金や支援制度の周知、自力で安全衛生教育をしてゆくことが困難な事業場向けに労働者がアクセスできる研修動画や研修動画があるサイトをQRコードで示す資料がほしい。

実際の現場では、人の見ていないところで力づくの介護をしてしまう人もおり、研修で習ったことが展開できていない事例もある。その背景には何かあって腰が痛くなる程度だという認識でいることがある。

近年介護職員の増加に伴い労働災害が増加しているが、労働行政のアプローチは「介護の現場は労働災害が多いので対策を講じましょう」というものであり、これから介護職を目指す人に対し、必要以上に介護の現場が危険な現場であるという印象与えてしまっている。

好事例を発表いただき、知識と実践がうまくリンクしている成功例と感じたし、職場で交流できる場を作っていることは素晴らしいと感じた。これらの研修内容を実践した利用者側の感想も聞いてみたい。

最近の研究で精神的ストレスも腰痛の一因となっているとの結果もあり、メンタルヘルス対策も協議会の対策事項に取り入れたい。



挨拶する子安労働基準部長

○岡山労働局労働基準部長からのメッセージ

介護の現場は、ここ3年間コロナ感染との戦いで大変ご苦労されていることと思います。

岡山労働局としても、これまでの個々の介護施設に対し、事業場臨検や集団指導を通じて指導してまいりましたが、介護施設にはそのような手法はなじみまず、労働災害の減少には至りませんでした。

そこで、令和4年度からは新たに、介護事業者や関係団体も交えて業界全体で労働災害防止に取り組むことといたしました。介護施設の労働災害防止について皆様方と一緒に考えてゆきたいと思いますのでご協力お願いいたします。